

# さあ！甲子園へ

## 第62回全国高校野球選手権大会

まぶしく照りつける太陽のもと、高校球児たちははつらつとした試合を繰り広げる夢の球宴「甲子園」——第六十二回全国高校野球選手権大会は、八月八日から甲子園球場で十四日間にわたり、代表四十九校による熱戦が展開されます。

三年連続十度目の出場を決めた天理高校は二年生中心の若いチームで例年よりスケールは一回り小さいものの、攻守につりあいのとれた好チーム。天理ナインはち密な野球を目指し、最後の調整に汗を流しています。甲子園では多くのファンにこたえる生き生きとしたガッツプレーを見せてくれるでしょう。

副部長兼白球寮長  
青木健次郎



投手 山本剛志

一七〇センチ 六一キロ  
昨夏もエースとして甲子園のマウンドを経験。今年は抑えのエースとして、大事なところでしめくくっています。度胸よく強気はよいが、勝負を急ぎすぎた失敗もあり、経験者のエースツヨシが抑えてくれれば気もツヨシ。右投右打

捕手 高峰長伸

一七二センチ 七〇キロ  
大きくよく通る美声が内外野をよくリードし、強肩で安定した守りは頼れる捕手。のんびり屋で物に動じないところが、また魅力。時には目のさめるようなホームランも打つから注目したい下位打者。右投右打

遊撃手 大西卓也

一六六センチ 五八キロ  
「デコちゃん」のニックネームも可愛い、おとなしくやさしい坊や。この容姿から想像できない華麗な守備はピンチを度々救ってくれる。バットを離し毛筆を持たせれば、その腕前の程も大したもの。右投右打

補欠 吉原直志

一五九センチ 五六キロ  
チーム一のチビッコであるが物事に動じない、めっぽう向う気の強い根性男。ちびっ子コンピの名副主将、野球カンも鋭く試合中の名コーチ。守備では堅実な内野手、望みも大きく優勝とか。右投右打

### ち密な

### 野球信条に



田中常夫部長

今のチームは力強いとは思えませんが、全員よくやってくれました。エース山本に加えて、川本が力を付けてくれ、投手陣も安定。この調子に乗って甲子園大会では一戦一勝を目指し、一戦々々大切に戦っていきたいと思っています。



清水 貢監督

若いチームだけに優勝するとは思っていませんでした。ピッチャーがよく投げてくれ、またよく守ってくれました。甲子園へ行くまでには、低下している打線の調子をあげていきたい。一つの試合だけを精いっぱい、一生懸命にやるだけです。

## 予想メンバー紹介

一塁手 陳 光栄

一七五センチ 六九キロ  
巨人軍の王選手を尊敬するというシカリ者の努力家。鋭い野球カンと冷静な判断力、胸のすくような長短打での切り込みは勝ち試合への大きな原動力。勉強に野球に、ただ一筋に努力する秀才型。右投右打

右翼手 川本和宏

一七六センチ 七五キロ  
川本と言えば大型打者と言うのが大方の目。それが大型投手、となしく変身、頼もしい左のエースに成長。コントロールも急成長。好不調の波も、どうやらおさまり今大会は、かなりやってくれそう。左投左打

補欠 加藤鉄平

一八〇センチ 七一キロ  
「テッペー」もと思いついてやれ、と絶えず声がかかる。おとなしくまじめ過ぎる性格からか、大型の素質をもちながら貴重なプレーになってしまふ。走攻守に思い切りと大胆さが増せば申し分ないところ。右投右打

中堅手 岡本英己

一七六センチ 七〇キロ  
何もかも今一歩と言われ、守備位置も番号も転々。やっと三年生としてのネバリを發揮、エンジンもフル回転し始め、今大会はかなり走りまくりそう。二年前甲子園出場の兄よりも活躍しそうな勢い。右投右打

補欠 岩阪雅由

一七八センチ 七〇キロ  
中学野球では名門、しかも優勝経験のある五条中の出身。野球の虫で毎日々が無我夢中、従兄弟の鈴木康友(巨人)の刺激があり、プレーもそっくり。もう少し力がつけば楽しんだ、内野手の控え。アゴ。右投右打



後列左から山本、小山、藤本、川本、加藤、高峰、小松崎 中列左から大西、小米、長谷、中村、岩阪 前列左から岡田、岡本、吉原、岩本、陳、監督

守備	学年	氏名	個人成績												
			打数	安打	打点	二塁打	三塁打	本塁打	三振	四死球	盗塁	失策	打率		
投手	3	山本剛志	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
捕手	2	高峰長伸	17	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.294
一塁	3	陳光栄	23	10	4	1	3	0	0	0	0	2	1	0	.435
二塁	3	小松崎雄志	18	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.278
三塁	2	藤本卓也	20	7	2	0	0	0	0	0	0	3	2	1	.350
遊撃	2	大西卓也	16	1	1	0	0	0	0	0	0	3	5	0	.063
左中	2	中村優仁	18	4	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	.222
右中	3	岡本英己	12	5	6	2	0	0	0	0	0	1	0	0	.417
左外	2	川本和宏	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.067
中外	2	小山昌男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
右外	3	吉原直志	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
捕手	3	岩阪雅幸	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000
投手	2	加藤鉄平	16	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.188
チーム			163	41	15	3	3	0	18	19	6	7			.252

氏名	投手成績						失点	自責点	防御率
	試合数	投球回数	被安打	奪三振	与四球	失点			
川本和宏	3	25	11	30	7	1	1	0.36	
山本剛志	2	12	5	9	3	1	0	0.75	
岡田剛久	2	6	0	4	1	0	0	0.00	
岩阪雅幸	1	2	2	1	1	0	0	0.00	
チーム	5	45	18	44	12	2	2	0.40	



甲子園でもおなじみの天理高校はしっかりと足取りで行進(8日・甲子園球場で)



## 高校野球

# 天理高ヒヤ汗の勝利

## 新発田農の猛追かわす

天理高校は、大会第五日目の第四試合、新潟代表の新発田農業高校と対戦、延長の末5-4で降り、三回戦にこまを進めました。

先攻の天理高校は初回、一死走者二、三塁とし、藤本が右前打で先制点を挙げ、二死になった後、加藤の打球を三塁手が失策、その間に三塁走者がホームイン、この回二点。

毎回走者を出す天理は、もう一步というところで追加点がとれなかったものの、五回には、一死走者一、三塁とし、岡本の

内野ゴロを三塁手が二塁に送球するのを見て三塁走者小松崎がホームインして三塁目。

川本、山本の継投で相手打線をかわそうとしましたが、六回

かわった山本は打球が単調になり、相手打線につかまり逆転を許しました。しかし天理高は七回、一死走者一、二塁に藤本が適時打し、同点に追いつきました。七回以降山本は本来の投球にもどり、走者を出しながらも点を与えず、4-4のまま延長に入りしました。

十回に天理高は一死走者一、

三塁の好機に大西が、見事スクイズバンドを成功させ、決勝点をあげました。その裏、二死走者三塁のピンチを迎えましたが

山本は絶妙のカーブで最終打者を三振にとり試合終了。天理高はこれで夏の大会初戦七連勝と初戦に強いところをみせてくれました。

清水賢監督の話 選手全員よくがんばってくれました。六回の投手交代は、あの時点で川本は緊張と疲れで限界でした。救援の経験が豊富な山本ですが、打球が単調になっていたようです。いろいろと反省する点の多い試合内容でした。

## 胸を張り

## 堂々行進

第六十二回全国高校野球選手権大会は八月八日、五万人を超える大観衆が見守る中、全国の精鋭四十九チームが参加して開

幕、十四日間の熱戦の火ぶたが切っておとされました。

午前九時、前夜の雨もあがりさわやかな気分に恵まれた甲子園に、開会のファンファーレが鳴り響き、選手入場。大会行進曲に乗って国旗と大会旗を先頭に各校選手が次々と入場。

三年連続十回目の出場を果たした天理高校は岡山理大付属高校に続いて十九番目の入場。奈良大会優勝旗を握る小松崎主将を先頭に十五人の天理球児はしっかりと足取りで行進しました。

# 天理高、決勝進出ならず

## 先制空しく横浜高に惜敗



七回表、無死一、三塁から岡本の左前安打で三塁走者の中村が生還、待望の先制点(対横浜戦)

天理 00000010001  
 横浜 000000300x3

天理高校は攻守に充実した試合ぶりをみせ、準決勝戦で強豪横浜と対戦、1対3で惜敗しました。

天理の先発は、右の本格派小山。横浜の先発は今大会屈指の左腕投手愛甲、先発した両投手の力投で六回まで息づまるような投手戦を展開、ゼロ行進が続きました。

先手をとったのは天理。七回相手内野の失策などで無死走者一、三塁の好機を迎えて、岡本が左前適時打で一点を先行しました。その裏、小山が二死までうちとったものの、内野の乱れに乗じて、安打を許して、この回、三点を失い逆転されました。

天理は、八回、九回と好機を迎え、横浜を苦しめました。あと一歩というところで、愛甲におさえられました。

雨の降る中、優勝候補の横浜高校に、一歩もひげをとらない



アルプス席一丸となった声援が雨の甲子園にこだまします(8月20日)

天理ナインの健闘が光りました。今年のチームは、前評判ではあまり高くなかったものの、チームワークで甲子園では、パイオレット旋風を巻き起こしてくれました。天理ナインは、敗戦したもの、ここまでこれた喜びに満ちあふれ、さわやかに甲子園を去っていききました。

田中部長の話 本場に、みんなよくここまで戦ってくれました。これも全員野球の成果です。自分の力を十分に発揮してくれたと思います。

清水監督の話 横浜の打線を意識して球威のある小山に投げさせました。小山は六回までは期待通りのピッチングをしてくれましたが、攻防のヤマであった七回以後、二回のスクイズ失敗は痛かった。とにかく選手たちは、よくがんばってくれました。

小松崎主将の話 ここまでこれただけでうれしい。チーム一丸となって、戦ってこれたので満足です。強豪横浜といえ試合ができて、とてもうれしい。

真柱も二観戦 準決勝進出の日、真柱も

〔準々決勝〕(十九日第三試合)  
 天理 02110000004  
 広陵 00000000112

勢いに乗った天理は三回、先頭打者の大西が一、二塁間をうまくぬける右前安打、陳の送りバントで二進。二死になったものの、中村が左前適時打して三塁点を奪いました。

機をものにしました。試合は天理ペースに。しかし広陵も持ち前の粘りを発揮、八回に一点ずつを奪いましたが川本がふんばり切って五十四回大会(四十七年)以来、八年ぶり二度目の準決勝進出。

あった打線も上昇、県大会で見られなかった先制集中打で、自軍ペースでの試合運びで、準決勝進出の大きな原動力になっています。

小松崎、中村、藤本の三長短打でまず二点。二回にも敵失を足場に、川本、陳、小松崎が三長短打を連ねて三点を加え試合を有利に。

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

初回から一塁側内野スタンド貴賓室から観戦されました。強豪相手に、大健闘する天理ナインに、惜しめない声援を送られていました。

### アルプス

①一方、岩谷富治天理高校長も連日の甲子園通い。柔道部の全国制覇に続いて、甲子園大会とスポーツ天理の大活躍に、うれしい悲鳴をあげながら、「ベスト4は出来すぎ、ここまでくれば、何もいうことはありません」と雨のスタンドで観戦。

②雨をもものともせず、アルプススタンドで、熱い応援を続けた押野修司リーダー(二年)率いる野球部応援団三十人と、パトントワリング部(上野信子リーダー)二十一、毎年ニュートリックで、スタンドの注目を浴びるチアガールたち。今年は、黄色いハチマキをしめ、紫のハッピと粋なスタイルで登場。カメラマンたちの人気の的でした。

③アルプスには、小松崎主将の両親、小松崎雄寿氏(本芝部属本芝福分教会長)、和子さんと弟の利明くん(六つ)も応援にかけつけました。

「やりたいからやるのではなくお与え頂いた野球の徳分を生かして、にをいがけのつもりでがんばれ」とハッパをかけ続けたという天理高吹奏楽部OBの殿父。ファイナルプレー、巧打でナインをひびける息子の活躍に大喜びでした。

〔三回戦〕(十七日第二試合)  
 天理 23000000016  
 熊本工 00000002103

天理高先制攻撃鮮やか。初回満塁に、加藤の犠飛で一点を加

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

え、試合をほぼ決定しました。この試合、川本の打球が少々荒れぎみであったことが幸いしてか、熊本工の各打者が、的がしぼれず六回までノーヒット。川本は七回に二点を失い、八回には熊本工の主砲伊東の二試合連続の本塁打を打たれたものの後続を断ちました。

# 天高野球部から三人

## プロ野球ドラフト指名

十一月二十五日東京で開かれたプロ野球ドラフト（新人選手選択）会議で、天理高校野球部から藤本博史君、小山昌男君、川本和宏君の三人が指名された。いずれも昨年夏の甲子園大会で「バイオレット旋風」を巻き起こした時の主力選手。一度に三人が指名されたのは全国でも珍しく、天理高校では初めてのこと。

全 4 人 一 人